

がん看護学援助論

単位数：2 単位

時間数：30 時間

開講年次及び学期：1 年次前期

○ 秋鹿 都子	臨床看護学講座准教授
若崎 淳子	臨床看護学講座教授
福田 誠司	島根大学医学部附属病院医療安全管理部教授
掛橋千賀子	姫路大学看護学部 特任教授
安田 千香	県立広島大学看護学科助教 がん看護専門看護師
坂井 淳恵	岡山ろうさい病院がん相談支援センター がん看護専門看護師
今岡 恵美	島根大学医学部附属病院看護部 看護師長 緩和ケアチーム 緩和ケア認定看護師

1. 科目の教育方針

がん患者の治療・療養過程における複雑な健康問題について理解し、その特性を考慮した問題のアセスメントと専門的看護ケアを提供するために必要な援助方法を学ぶ。そして、がん患者と家族のQOL 向上をめざした包括的な支援としてのチームアプローチや専門性の高い看護援助方法について探究する。

2. 教育目標

- 1) がん患者と家族の治療・療養における様々な状況・局面での意思決定プロセスについて学び、がん患者と家族の意思決定支援に向けた看護援助について探究する。
- 2) がん患者・家族を中心としたチームアプローチについて理解し、専門性の高い看護援助について探究する。
- 3) がんの予防、スクリーニング、早期発見について学び、その支援方法について探究する。
- 4) がん患者の治療に伴う全人的苦痛・苦悩について理解し、看護援助について探究する。
- 5) がん患者の生活や社会的役割をふまえた理解と看護援助について学び、その実践について探究する。
- 6) がん患者・家族とのコミュニケーションについて学び、その実践について探究する。
- 7) がんサバイバーの長期的影響について理解し、時期ごとの支援について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 講義はオンライン講義とし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。
- 2) 授業では講義の他、受講生各自のレポート内容に基づいたプレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 3) 授業への臨み方
 - ・がん患者と家族の生活の質を高める看護実践ができるための知識と問題解決能力が身につくよう、目的・問題意識をもって授業に臨むこと。
 - ・がん患者やがん医療・看護に関する最新情報について、文献等から主体的に学習すること。
- 4) 評価
プレゼンテーション内容、レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

講義の中で適宜紹介する。

- ・国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療レジデントマニュアル第8版，医学書院，2019

5. 教育内容

回	内 容	担 当
1	診断から療養過程におけるがん患者と家族の意思決定支援 がん患者・家族の意思決定プロセス、影響要因	掛橋千賀子
2	がん患者とチームアプローチ	秋鹿都子
3	がん看護領域における倫理的問題の理解	掛橋千賀子
4	がんの予防、スクリーニング、早期発見と看護	若崎淳子
5	がんの治療と看護 (1) 手術療法	秋鹿都子 今岡恵美
6	がんの治療と看護 (2) 放射線療法	安田千香
7	がんの治療と看護 (3) 薬物療法	掛橋千賀子
8	がん患者・家族とのコミュニケーション	坂井淳恵
9	がんサバイバーの身体的側面のアセスメントと時期ごとの支援	掛橋千賀子
10	がんサバイバー・家族の心理社会的側面のアセスメントと時期ごとの支援	掛橋千賀子
11	がん患者の就労の現状を踏まえた問題と支援	秋鹿都子
12	がん患者のセクシャリティの問題のアセスメントと援助	若崎淳子
13	AYA 世代がん患者の看護	秋鹿都子
14	遺伝学的診断における看護と課題	福田誠司
15	がん患者の在宅療養支援 在宅療養への移行支援、継続支援	秋鹿都子

嘱託講師は集中講義とする。